

1 開 会

出席者（学 校）：鎌田校長、西村副校長、柳本教頭（全日）、川口教頭（定時）、児玉事務長
土田主幹教諭

（評議員）：太田 隆久、黒元 浩志、春田 淳一、岡田 理恵、中島 啓〈敬称略〉

2 内 容

- (1) 校長挨拶
- (2) 学校評議員紹介、学校職員自己紹介
- (3) 令和2年度北海道滝川高等学校学校経営方針について
- (4) 学校評議員会開催計画について
- (5) 学校概況説明（全日制課程、定時制課程）
- (6) 意見交換

・評議員：単位制について。普通科のみで実施するのか。また、理数科も併せて実施するのであれば、普通科・理数科混合の授業はあるのか。教員数の増減はあるのか。

（回答）：単位制は普通科・理数科ともに実施する。ただ、理数科は、専門科目の縛りが多いため難しい面もあるが、両科混合の授業や年次混合の授業も設定する。教員数は、年を追っての加算となる。

・評議員：単位制を実施している他校との違いは何か。

（回答）：「進学重視」であるので、アラカルト方式のように就職対応の科目は設定しない。少人数・習熟度別の授業を行うことで、近年広がりが見られる入学時点での学力差を埋めていきたい。

・評議員：単位制になると、単位（履修）の管理が大変になるのではないかと。

（回答）：ガイダンス機能を充実させ、生徒の進路希望を叶えるための選択ができるようきめ細やかに指導していく。基本的には、今までの進学校のスタンスは変わらない。

・評議員：単位制導入をPRすることを考えているのか。

（回答）：本校での体験入学会での説明の他、7・8月に中学校に出向いて説明する。

・評議員：SSHは、来年中間評価があるが、それに対して本校が発表するような機会があるのか。また、3期目は目指すのか。

（回答）：文部科学省が評価するもので、本校独自の発表会はない。3期目も継続を目指す。

・評議員：理数科で、今年度入試で倍率が高かったことの要因は何か。

（回答）：全道的に理数人気が高かった。課題探究の意義や面白さのPRのほか、理科・数学ができるというだけでなく、興味がある・好きな子は積極的に受検して欲しいというPRも影響したのではないかと。

・評議員：生徒・保護者は、将来に向けて明確な目標を持てる学校を選んでいる。ぜひ、そのような学校を目指して欲しい。

・評議員：校外での活動の充実も高校生には必要である。定時制のインターンシップなどを外部機関と連携すると良いのではないかと。

（回答）：機会があれば、進めていきたい。

・評議員：生徒の交通安全について、町内会等とも連携して安全を確保して欲しい。

（回答）：警察や町内会とも連携しながら、生徒の安全を守っていきたい。